

次代を担う学生たちと関西育種場が共同で検定林を造成

令和2年12月8日

関西育種場では、将来の優良な林業品種を選抜するための検定林を、森林管理局・署の皆様の御理解と御協力のもと、主に国有林内に設定しています(「検定林」については、2020年6月15日掲載の「優れた林木を後世へ(次代検定林)」をご覧ください。)

この度、ヒノキの検定林とキハダの試験林を、兵庫森林管理署の分収造林地内に設定するにあたり、兵庫県立森林大学校(以下「森林大学校」と関西育種場との間で、「ヒノキエリートツリー及びキハダ植栽共同試験に係る覚書」を締結し、森林大学校と関西育種場が共同で検定林を造成・管理していくこととなりました。

検定林の設計・調査、苗木の提供、次世代優良個体の選抜・採穂・増殖は関西育種場が行いますが、植栽及び下刈り等の一般的な保育・管理は、森林大学校の生徒が授業の一環として行います。このように関西育種場の検定林や試験地が、学校の「演習林」として活用されるのは初めてのことでないかと思います。

検定林の造成に先立ち、令和2年10月10日(土)に行なわれた兵庫森林管理署及び森林大学校主催の分収造林記念式典におきまして、関西育種場長より森林大学校の生徒代表へ、検定林造成用の苗木の贈呈を行いました(写真1)。

そして、いよいよ苗木の植栽です。10月～11月にかけて、林木育種についての基本的な内容や苗木の植栽についての講義(写真2)、実際の植栽作業を行ないました。生徒たちは最初戸惑いもありましたが、すぐに作業に慣れた様子で手際よく植え付けを行ってくれました(写真3)。

この検定林から新しい品種が選抜され、世に出回るまでには20年程度かかります。20年後といえば、森林大学校の生徒のみなさんが未来の職場で、リーダーとして活躍されている頃だと思っています。

生徒自身が手掛けたこの検定林から誕生した新品種の苗木を20年後に未来の職場で再び手にできるよう、生徒たちの今の姿を見ながら、思いを新たにしましたところです。



【写真1】苗木の目録贈呈



【写真2】植栽に当たっての注意事項の説明



【写真3】植栽作業の様子

(関西育種場)